# 大学入試制度変更で、入試はどう変わるか

2016年7月26日(火)

(株)大学通信
〒102－0084　東京都千代田区二番町11－7
常務取締役　情報調査・編集部ゼネラルマネージャー
安田　賢治
TEL03(3515)3542　FAX03(3515)3556
E-mail yasuda@univpress.co.jp
HP　http://www.univpress.co.jp

1

# なぜ、大学入試制度改革が行われるのか？

大学通信情報調査・編集部

2

# 大学を取り巻く厳しい環境

**①大学には入りやすくなった**

→少子化にもかかわらず入学者は増加　大学・学部の増加
この30年で大学は319校増え約1.7倍に

**②入りやすいということは志望校選びが難しい時代に**

→一部の難関大を除き、私立大の43%が定員割れしている状況で、難易度が役に立たない時代へ

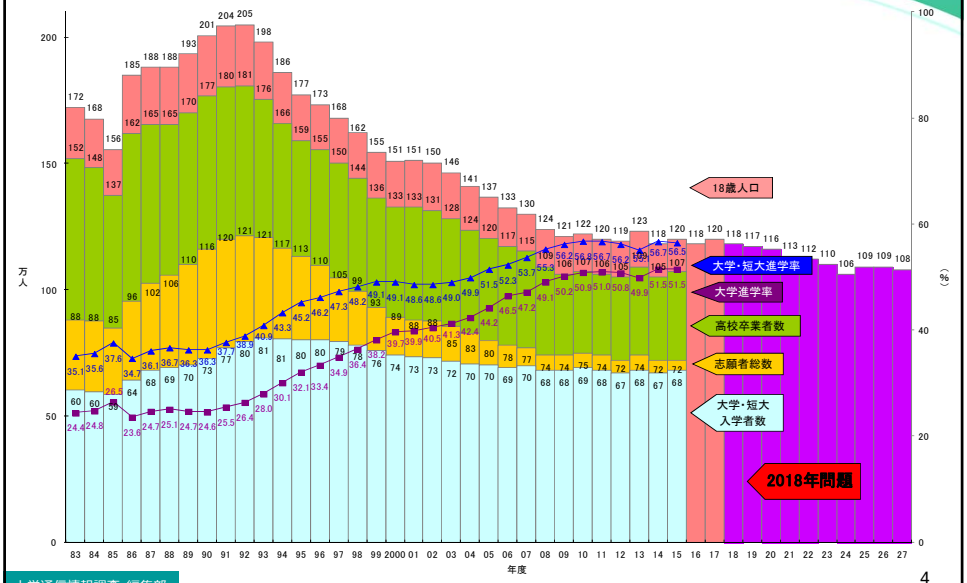
**③学力以外のファクター重視の傾向**

大学入学定員≧大学志願者→全入時代
2015年　586,024人≦661,678人

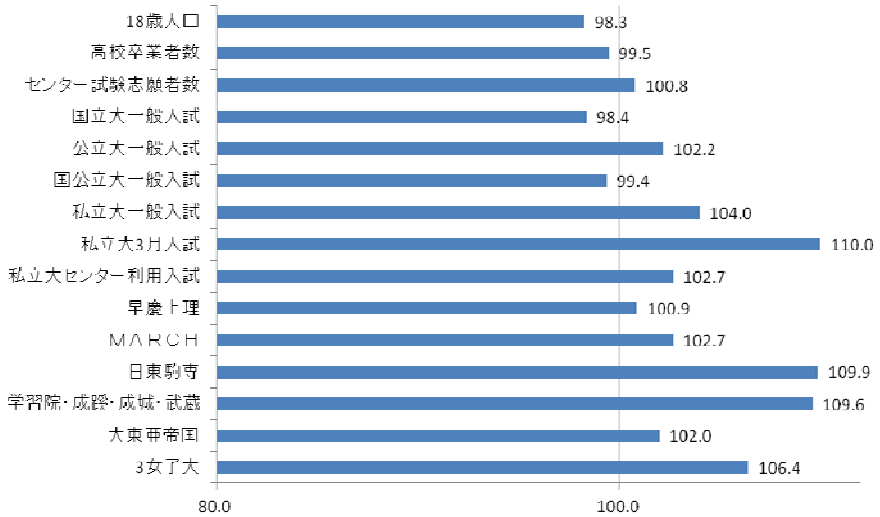
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1992年（ピーク時） | 志願者 | 92.0万人 | 入学者 | 54.2万人 |
| | | ↓ | | ↓ |
| 2015年 | 志願者 | 66.2万人（－28.0%） | 入学者 | 61.8万人（＋14.0%） |



# 少子化はどこまで進むか



# 今年の入試の傾向①




2015年を100とした場合の2016年の指数



# 大学志願者数ランキング　ベスト10

《国公立大学》
千葉大14年ぶり志願者トップ

| 順位 | 区分 | 大学 | 2016年 | 2015年 | 前年差 | 前年比 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 国立 | 千葉大学 | 11,357 | 10,145 | 1,212 | 111.9% |
| 2 | 国立 | 大阪大学 | 10,434 | 10,327 | 107 | 101.0% |
| 3 | 国立 | 北海道大学 | 9,919 | 9,834 | 85 | 100.9% |
| 4 | 国立 | 神戸大学 | 9,889 | 9,986 | ▲ 97 | 99.0% |
| 5 | 国立 | 東京大学 | 9,278 | 12,384 | ▲ 3,106 | 74.9% |
| 6 | 公立 | 首都大学東京 | 8,481 | 8,223 | 258 | 103.1% |
| 7 | 公立 | 大阪府立大学 | 8,439 | 8,526 | ▲ 87 | 99.0% |
| 8 | 国立 | 京都大学 | 8,353 | 8,041 | 312 | 103.9% |
| 9 | 公立 | 高崎経済大学 | 7,840 | 6,771 | 1,069 | 115.8% |
| 10 | 国立 | 横浜国立大学 | 7,839 | 8,154 | ▲ 315 | 96.1% |

《私立大学》
近畿大3年連続志願者日本一

| 順位 | 大学 | 2016年 | 2015年 | 前年差 | 前年比 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 近畿大学 | 119,915 | 113,704 | 6,211 | 105.5% |
| 2 | 明治大学 | 108,500 | 105,702 | 2,798 | 102.6% |
| 3 | 早稲田大学 | 108,039 | 103,494 | 4,545 | 104.4% |
| 4 | 日本大学 | 104,558 | 94,373 | 10,185 | 110.8% |
| 5 | 法政大学 | 101,976 | 93,986 | 7,990 | 108.5% |
| 6 | 立命館大学 | 94,930 | 87,668 | 7,262 | 108.3% |
| 7 | 東洋大学 | 84,886 | 83,546 | 1,340 | 101.6% |
| 8 | 関西大学 | 82,592 | 82,941 | ▲ 349 | 99.6% |
| 9 | 千葉工業大学 | 76,495 | 50,888 | 25,607 | 150.3% |
| 10 | 中央大学 | 75,275 | 69,818 | 5,457 | 107.8% |

# 近年の入試のトレンドは

■「現役志向」「安全志向」「地元志向」

経済的な問題もあり、現役で大学に進学→現役で大学に進学するには確実に合格できる安全な大学を受験、上位校を受けない傾向も変わらず→地元の大学を受験

■受験生の大学・学部選び

2008年のリーマンショック以降、４年後あるいは6年後の就職を意識した学部・学科選びへ　2014年から文系学部卒業生の就職が好調に、その結果“文高理低”の学部志望動向に

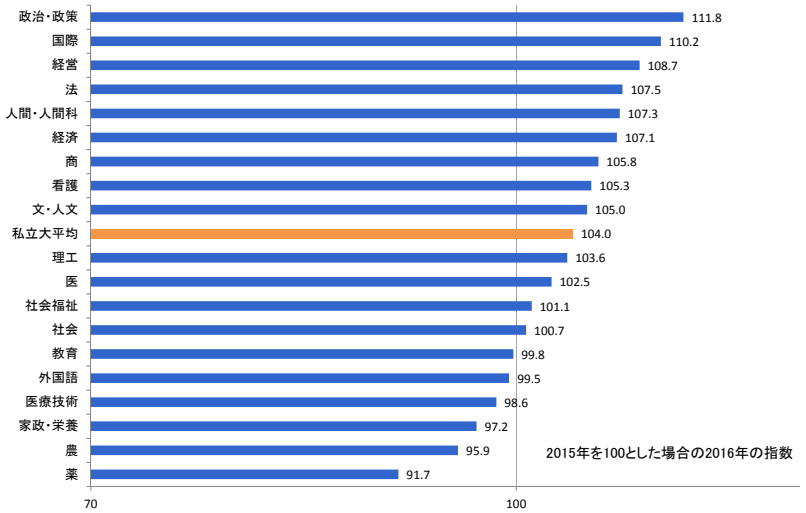
■国公立大人気

学費の安い国公立大が人気　特に理系



# 今年の入試はどうだったか②

私立大志願者数から見る今年の人気学部は“文高理低”



## 変わってきた受験生

受験生気質の変化

■第一志望合格より現役進学
→経済的な問題もあるが、保護者は浪人するのは生涯賃金が減るから敬遠

■自宅から通える大学、キャンパスを志望

■地元志向が進む一方で、志望校に国境がなくなってきた

■やさしい子が増え、受験の重圧に耐えられない
→受験が個人戦から団体戦へ　それで好結果

■家で勉強せず、学校、予備校などで放課後勉強
→皆、頑張っているから自分も頑張ろう

■社会貢献、困っている人を助けたい意識が高い



## この先、入試はどうなっていくか

・今後の入試→ますます入りやすくなることは必定　淘汰される大学も増える

・受験生の学部志望動向→文系、理系人気は景気次第で、大学入試での景気とは企業の採用動向　本来、卒業後にさらに国家試験がある資格系は敬遠されてきた

・受験生の傾向は変わるか→景気が回復すれば「現役志向」「安全志向」「地元志向」は解消するが、少子化で保護者が子どもを離したがらない傾向は続きそう

・国公立大→人気は変わらず、地方私大の公立大化が進む

・入試全体の動き→ネット出願、受験料割引あるいは値下げ、外部試験の活用は増加しそう

# 入試制度改革の
# 入試への影響と対策



## なぜ、入試改革が必要か

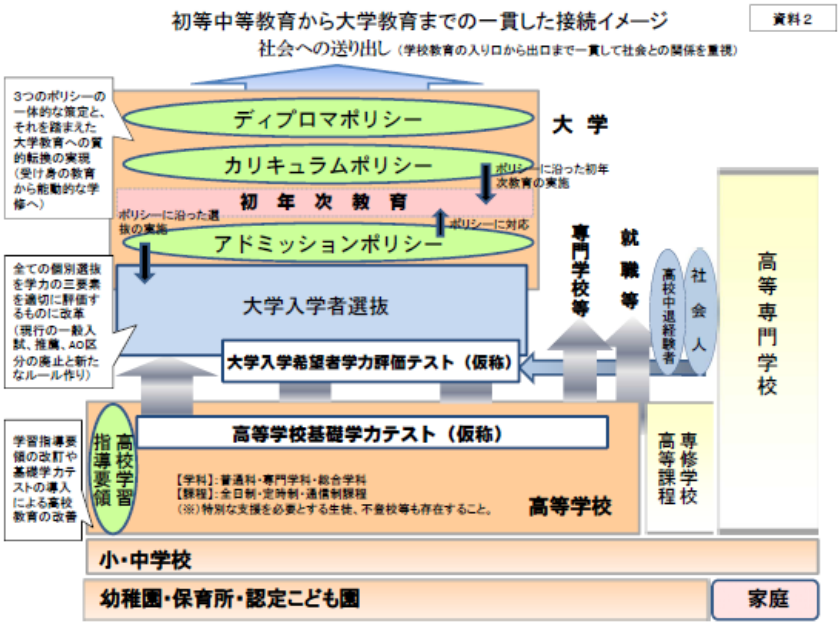
■ 大学に入りやすくなった
推薦、ＡＯ入試で私立大は5割以上が入学

・生徒を集めることが目的で学力を問わない入試が増加
・大学でも中学1年の英語の授業を行って単位認定→高等教育とは言えないと文科省が非難
・高校生にしっかり勉強させることを意図

■ 今までの入試にも問題があった

・知識・技能を聞く問題が中心で、思考力、判断力、表現力を問う試験になっていない　答えのない問題、あるいは答えが複数ある問題に弱い　これを改善

■ 大学独自の選抜を可能に　満点でも不合格にして良い入試へ




# 大学入試改革はどうなっているか①

高大接続システム改革会議「最終報告」から

・２０２０年と２０２４年の二段階の改革
　２０２４年は次の新学習指導要領で入試が実施される

・大学入試センター試験（50万人ぐらいが受験）廃止
　→「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」（以下、評価テスト）の実施

・評価テストの試験の内容は「知識・技能」をきく問題より
　「思考力・判断力・表現力」をきく問題が多くなる

・評価テストの記述式(条件付き記述式　短文)導入　国語、数学の順に導入　採点は民間？
　記述式を12月、マークシート式を1月に実施か、両方とも同日に実施するかは決まっていない

大学通信情報調査・編集部　14

## 記述式問題の例

【問】雑誌の記事を読んで、宇宙エレベーターについてあなたが疑問に思うことを、「なぜ」「どのような(に)」「どのくらい」という言葉のいずれかを使って、20字以上40字以内でひとつ書きなさい

【正答例】宇宙エレベーターの実現には、どのような課題があるのか。

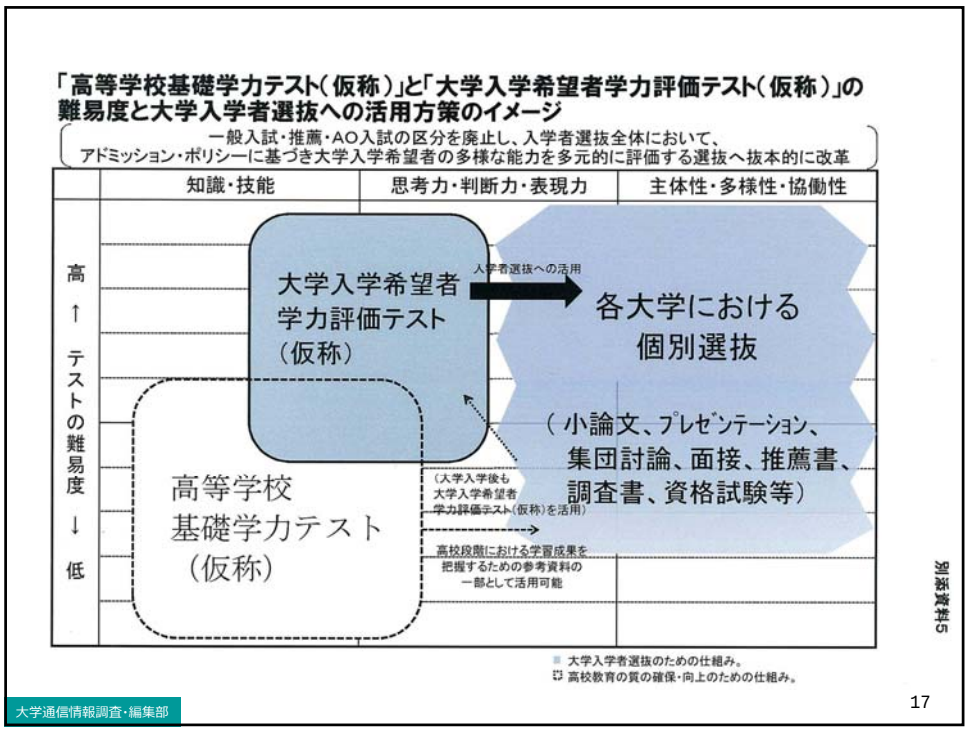
【誤答例１】宇宙エレベーターのケーブルは、地上のどこに向かって伸ばしていくのか。

【誤答例２】宇宙エレベーターに乗るための費用はいくらなのか。



## 大学入試改革はどうなっているか②

- 評価テストの成績は段階別表示とされているが、「記述式」以外には言及なし
- 評価テストの複数回実施は見送り
- 大学独自試験は学科試験実施可
- ＣＢＴ(パソコンかタブレットを使っての解答)方式は2024年から
- 英語の４技能（読む、聞く、書く、話す）については現在のセンター試験では「話す」だけが実施されていない
  →録音機能の付いた電子機器に音声を吹き込む試験に
  マーク式とは別の記述式と同じ日に実施の可能性も
  民間の英語の資格・検定試験を英語の試験の代替として活用する可能性も
- 高等学校基礎学力テスト（仮称）の実施




大学通信情報調査・編集部

17

## 大学入試改革のスケジュール①

2019年夏～秋　高等学校基礎学力テスト（仮称）２回実施
（高校2年生対象　現在の中学2年生）

2020年1月　最後のセンター試験実施
（高校3年生以上　現在の中学3年生以上）

夏～秋　高等学校基礎学力テスト（仮称）２回実施
（高校3年生と2年生対象　3年生は現在の中学2年生　2年生は現在の中学1年生）

2020年12月～2021年1月　大学入学希望者学力評価テスト（仮称）実施（高校3年生以上）

2～3月　大学入試

大学通信情報調査・編集部

18

## 大学入試改革のスケジュール②

2023年夏～秋　現行課程最後の高等学校基礎学力テスト（仮称）２回実施
（高校3年生対象　現在の小学校5年生）
次期学習指導要領（新課程）での高等学校基礎学力テスト（仮称）2回実施
（高校2年生対象　現在の小学校4年生）

2023年12月～2024年1月　現行課程最後の大学入学希望者学力評価テスト（仮称）実施

2～3月　現行課程最後の大学入試

2024年夏～秋　高等学校基礎学力テスト（仮称）２回実施
（高校3年生と2年生対象　3年生は現在の小学校４年生　2年生は現在の小学校3年生）

2024年12月～2025年1月　新課程初の大学入学希望者学力評価テスト（仮称）実施

2～3月　新課程での初めての大学入試



## 大学入試はどうなるか①

大学入学希望者学力評価テスト（仮称）はセンター試験の代わりになるか？

・段階評価である限り、今までのような国公立大の二段階選抜、私立大のセンター試験利用入試の実施は厳しい

①国公立大の二段階選抜がなくなるとすれば受験生にとって朗報

②私立大のセンター試験利用入試は全志願者の3割を占めるが、段階評価では差がつかず、調査書とともに判定するなど他の判定基準がないと実施が厳しい

→やめるところが多いと、受験機会が減ることになる

さらに、首都圏を中心にセンター試験利用入試はセンター試験実施前日が出願締め切り

→記述式が12月になると、その前に出願締め切り？入試スケジュールの前倒し不可避

## 大学入試はどうなるか②

・今年の中学入試で大学付属校が人気に
　どうなるかわからない大学入学希望者学力評価テスト（仮称）を受けずに大学進学
　→同じことが大学入試で起きて、敬遠する受験生も多いと予測され、私立大で推薦やＡＯ入試が人気になりそう
　　一般入試でも大学入学希望者学力評価テスト（仮称）を受けなければならない国公立大を避けて私立大が人気になりそう

・大学入学希望者学力評価テスト（仮称）実施前年の2020年2～３月の入試は安全志向の入試になる

・すでに2020年の入試改革を見越した新入試も増えている

・小学校4年生が受ける19年の中学入試でも大学付属校人気が高まる可能性も



## 大学入試はどうなるか③

・外部英語試験を活用した入試が増えそう

・既に2020年の入試改革を見越した英語の外部試験利用入試実施されているが、人気が今ひとつ

上智大　ＴＥＡＰ型入試　4634人(昨年比－4,472)
文2251人→1029人　総合人間科学1462人→456人
総合グローバル774人→282人・・・・

法政大　英語外部試験利用　35人募集
志願者430人

立教大　全学部グローバル方式　131人募集
志願者374人

来年から早稲田大・文、文化構想、明治大・経営、中央大・経済、文の2学科、総合政策なども実施

# 増える英語の外部試験利用入試

主な大学の外部試験利用入試で採用している試験

| 大学名 | 英検 | TOEIC | TOEIC+ TOEIC S&W | TOEFL iBT | TOEFL PBT | TOEFL Junior Comprehensive | TEAP | IELTS | GTEC CBT | GTEC for Students | ケンブリッジ英検 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 千葉大 | ○ | | ○ | ○ | | | | ○ | ○ | | |
| 東京海洋大 | ○ | ○ | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | |
| 早稲田大 | ○ | | | ○ | | | ○ | ○ | | | |
| 上智大 | | | | | | | ○ | | | | |
| 東京理科大 | ○ | ○ | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | | |
| 学習院大 | ○ | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | | ○ |
| 明治大 | ○ | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | |
| 青山学院大 | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | | |
| 立教大 | ○ | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | | |
| 中央大 | ○ | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | | ○ |
| 法政大 | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | | | |
| 東洋大 | ○ | ○ | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 専修大 | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ |
| 南山大 | | | | ○ | | | ○ | ○ | | | |
| 関西大 | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ |
| 関西学院大 | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ |
| 立命館大 | ○ | | | ○ | | | | ○ | ○ | | |
| 甲南大 | ○ | ○ | | ○ | | | | | | | |
| 龍谷大 | ○ | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | |



# 大学入試が変わる

・外部試験利用の英語の試験は増えていきそう
　→基準をどこにするかで志願者数は大きく変わる
　　理系の大学・学部にグローバルのイメージがあまりない

・東大が推薦入試、京大が特色入試実施もその一環

・国公立大を中心に出題も記述式が増えそう

・少数科目入試は減っていきそう

・Ｗｅｂ出願のみの大学が増える
　早稲田大、慶應義塾大、立教大が来年から

東京大学

## 東京大学推薦入試の概要

〔推薦入試の基本方針〕
東京大学の推薦入試は、学部学生の多様性を促進し、それによって学部教育の更なる活性化を図ることに主眼を置いて実施します。実施に当たっては、日本の中等教育における先進的取組を積極的に評価し、高等学校等の生徒の潜在的多様性を掘り起こすという観点から、日本の高等学校等との連携を重視します。（平成28年度入試から実施）

**募集人員（合計100人程度）**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 法学部 | 10人程度 | 経済学部 | 10人程度 |
| 文学部 | 10人程度 | 教育学部 | 5人程度 |
| 教養学部 | 5人程度 | 工学部 | 30人程度 |
| 理学部 | 10人程度 | 農学部 | 10人程度 |
| 薬学部 | 5人程度 | | |
| 医学部 | 5人程度（うち、医学科1人程度、健康総合科学科2人程度） | | |

**推薦要件**

○学部ごとに定める推薦要件に該当し、当該学部の学問分野に対する強い関心及びこれを本学で学ぶ積極的な意欲を持ち、学校長が責任をもって推薦できる者
○学校長が本学に推薦できる人数は、男女各１人まで（男女いずれかのみが在学する学校においては１人）
○推薦要件に合致することを具体的に証明する書類例

- 在学中に執筆・発表した論文や「総合的な学習の時間」による成果など
- 各種科学オリンピックにおける受賞歴など
- 外国語 語学力証明 TOEFL・英検・ IELTS など
- 留学経験、国際通用性のある入学資格試験の成績 国際バカロレア、SATなど

※ その他、社会貢献、芸術・文化・スポーツなどでの意欲的な活動など

**入学者選抜方法等**

○本学の総合的な教育課程に適応しうる学力を有しつつ、本学で教育・研究が行われている特定の分野や活動に関する卓越した能力、もしくは極めて強い関心や学ぶ意欲を持つ志願者を求めます。
○合否判定は、提出書類・資料、面接等、及び大学入試センター試験の成績を総合的に評価して行います。大学入試センター試験は、入学後の学修を円滑に行い得る基礎学力を有しているかどうかを判断する観点から、概ね８割（720点）以上の得点であることを目安とします。※医学部医学科は780点程度

推薦入試の流れ

| | | |
|---|---|---|
| H27年 | 7月22日 | 募集要項の公表 |
| | 11月２日～６日 | 出願受付 |
| | 11月中下旬 | 書類審査 |
| | 12月１日 | 第１次選考合格者発表 |
| | 12月19日・20日 | 面接等実施 |
| H28年 | 1月16日・17日 | 大学入試センター試験 |
| | 2月10日 | 最終合格者発表 |

**入学後の学修**

○東京大学は、推薦入試で入学した学生が、東京大学、ひいてはグローバル社会の活力の源として活躍することを期待しています。
○入学後、文科一類・文科二類・文科三類・理科一類・理科二類・理科三類の６つの科類のうち、志望学部が個別に指定する科類に分かれ、一般入試の学生とともに教養学部に所属して前期課程（第１，２学年）の学修を行います。ここにおいては、学生の志望分野に対する関心や学ぶ意欲にきめ細かく応えることが可能となるよう、早期に専門教育に触れる機会の提供や、学修について個別に助言・支援する教員の配置などの措置を講じます。
前期課程修了後は，出願時に志望した学部へ進学します。

大学通信情報調査・編集部 25

## 対策はどうとればいいか？

■教育内容は大きくは変わらない

2024年に予定されている学習指導要領の改定までは、基本的な学びは今まで通りで変わらない
→教科型の学習は従来通りで、入試だけが変わると考えたほうが良い

■サンプル問題が提示されるので、それにあわせて対策

■今後、変わるのは教育手法

→アクティブラーニング、フィールドワーク、グローバル教育などに力を入れる学校が増えていく
海外子女受け入れ校、IBコースも増えていきそう

大学通信情報調査・編集部 26

## これからの入試は

・2018年問題と言われるように、今後も少子化は進む

定員割れの私立大学が43%で、淘汰される大学も出てくる
入試では「量を求める大学」と「質を求める大学」に二極化は確実に進む

・地元志向は続く一方で、グローバル志向も強まる

地元の大学、しかも今以上に家の近くの大学が人気。 その中でグローバル化に取り組む大学、海外大学が人気に

・10年、20年先には今ある職業の半分はなくなると言われている

大学卒業後の応用力、コミュニケーション力の重要性が増す

**ご清聴ありがとうございました**